

## 基礎学力の定着と自ら学び自ら考え 判断する児童の育成

～「算数の学習を楽しむ子」を育てる指導の工夫～



岩槻区 太田小学校 研究推進委員長 **横崎 邦子**

### 1 はじめに

本校は、平成22・23年度、さいたま市教育委員会による委嘱を受け、教育課程の研究を行った。学校の教育目標の実現と、「さいたま市学校教育ビジョン」の具現化を図るため、研究主題「基礎学力の定着と自ら学び自ら考え判断する力の育成」を設定し、「生きる力」をはぐくむため、様々な創意工夫を生かしながら算数科の研究に取り組んできた。

### 2 研究の概要

研究主題から目指す児童像「自分の考えをもち、算数の学習を楽しむ子」に迫るべく、次の3点を研究内容に定め、研究を進めた。  
〈研究の内容〉

- 1 「授業研究の視点」に沿った授業の実施・評価・改善
- 2 基本的な知識・技能の定着を図る日常の学習活動
- 3 児童の変容をとらえる調査研究

本稿では、研究内容1を中心に述べる。

### 3 研究の内容

「授業研究の視点」を定め、授業実践を中心に研究を進めた。

#### 【研究の視点1】

自分の考えをもつことができる指導の工夫

#### 手だて① 課題を明確にもたせる工夫

○既習事項を振り返り、既習事項との違いを

明らかにする。

○具体物を活用することで、課題について具体的なイメージをもたせる。

【実践例・1年】10より大きい数



「いくつさいているか、みてすぐわかるようにならべてかぞえよう」

生活科で育てているあさがおの模型を数えさせることと、分かりやすい言葉で課題を示すことで、「一目見て分かりやすいように並べる」という課題を明確に意識できた。

#### 手だて② 課題に応じた算数的活動の設定

○課題に応じて「操作活動をさせる」「絵で表す」「図で表す」「式で表す」「説明する」など、適切な算数的活動の設定をする。

○算数的活動をしやすい教材・教具の工夫をする。

【実践例・2年】三角形と四角形



ピースに磁石をつけた教具の工夫により、一度置いたピースがずれなかった。このことで、頂点同士を合わせたり、同じ長さの辺を合わせたりすることを意識して活動できた。

#### 手だて③ 個に応じた指導

○少人数指導・TT等指導形態の工夫をする。  
○個別支援計画を作成する。

【実践例・5年】図形の角

2クラスを習熟度別による「じっくりコース」「ぐんぐんコース」「わくわくコース」の

3コースに分けて指導した。じっくりコースではペアで解き方を相談する、ぐんぐんコースでは伝え合いを中心に、わくわくコースでは考えをグループで練り上げていくことを目的とするなど、少人数の話し合いの形態や目的を実態に応じて工夫した。



#### じっくりコース

教科書の問題を、友達と相談したり、適切な支援を受けたりしながら解くことができる。



#### ぐんぐんコース

教科書の問題を、できるだけ自分の力で解くことができる。



#### わくわくコース

教科書の問題の他にも難しい問題に挑戦し、解き方・考え方を表現できる。

### 手だて④ 学習内容の強化・習熟を図る工夫

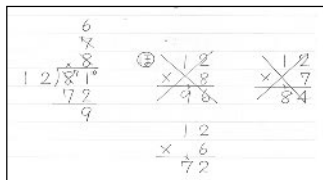
- 学習内容に応じた「適用問題」を行う。
- 1時間に1問は教師が丸付けをする。
- 短時間で習熟を図る工夫をする。

【実践例・1年】20より大きい数

読み方を統一し、提示して何度も読ませ、定着を図った。



【実践例・4年】わり算の筆算



仮商を立てるためにかけ算部分を明記させることで、安心して仮商を立てることができ、

筆算を進めることができた。

【研究の視点2】

思考力や表現力を高める学び合いの工夫

### 手だて⑤ 一人ひとりが自分の考えを伝え合える場の工夫

- 低学年はペアで、中・高学年は基本的に「3人組」でのグループ学習を行い、少人数の話しやすい雰囲気の中で、どの子も自分の考えを伝えられる機会をつくる。



←2年生・ペア  
4年生・3人組で→



### 手だて⑥ 考えを共有するための学び合いの工夫

- 全体場で考えを共有することにより、よりよい解決方法を見付けさせる。
- 高学年では、友達の考えをみんなに説明する活動を取り入れることにより、一つ一つの考えに深く触れさせる。



【実践例・6年】立体の体積  
友達の考えを説明することで、理解を深めた。

### 手だて⑦ 「振り返りタイム」の設定

- 課題に応じた「学習感想」を書かせることにより、学習内容を振り返らせる。
- 児童の実態や学習の展開に応じて、書かせるのではなく発表を行うこともある。

## 4 成果と課題

アンケートの結果から、「算数の学習が好き」という児童が全体の8割を超えた。

要因の一つとして、課題に対してその子なりに自分の考えをもつことができたことが挙げられる。これは、集中単元方式による少人数指導を生かし、個々に合わせたきめ細かな指導を行ったことをはじめとする「研究の視点1」の手だてが効果を上げたと考えられる。

また、適用問題を解かせたら必ず1問は教師が確認をするなど、手だて④に挙げたような工夫を行うことで、自信をもって問題を解けるようになったことも要因の一つであると考えられる。「自分の考えを説明できる」と答えた児童も増えている。手だて⑤で小集団の学び合いの活動を取り入れた成果だと考えられる。

## 5 おわりに

児童の実態をきめ細かく捉え、学習過程を工夫・改善するなど、学力が向上する手だてを考え実践することで、児童の学習意欲が高まり、さらなる成長につながった。

この研究の成果を生かし、今後も「生きる力」をはぐくむとともに、「自分の考えをもち算数の学習を楽しむ子」を育てていきたい。